

サトイモ疫病防除マニュアル (令和6年5月版)



埼玉県農業技術研究センター

もくじ

1. はじめに

2. サトイモ疫病とは

3. 県内の発生消長

4. 防除薬剤

5. 防除体系

(1)県内の発生消長をもとにした防除暦

(2)県内の現地試験の結果

6. 農薬以外の防除対策

(1)種芋の水洗

(2)残渣処理

(3)適正施肥

1.はじめに

サトイモ疫病は日本でも昔から知られている病害でしたが、大きな問題となることはありませんでした。しかし、2015年以降、宮崎県、熊本県、愛媛県、千葉県などで激発し収量低下をもたらしていますがその原因は不明です。

埼玉県内でも2018年以降、県南部で発生し、3割程度の減収がみられる年もありました。

しかし、本マニュアルに記載した防除体系の実施により被害を抑えることが出来ています。

サトイモ疫病が発生している地域では本マニュアルに基づいて防除しましょう。



2. サトイモ疫病とは

(1)学名 *Phytophthora colocasiae*

(2)生育温度 10～35℃

20～22℃で遊走子を大量に形成し、
水が媒介することで急速に広がる。

(3)疫病の被害

疫病は葉柄に感染すると葉が倒伏することから、葉枚数が減少し、減収します。

また、疫病は種芋にも感染します。感染した種芋は土中で腐敗し伝染源となります。

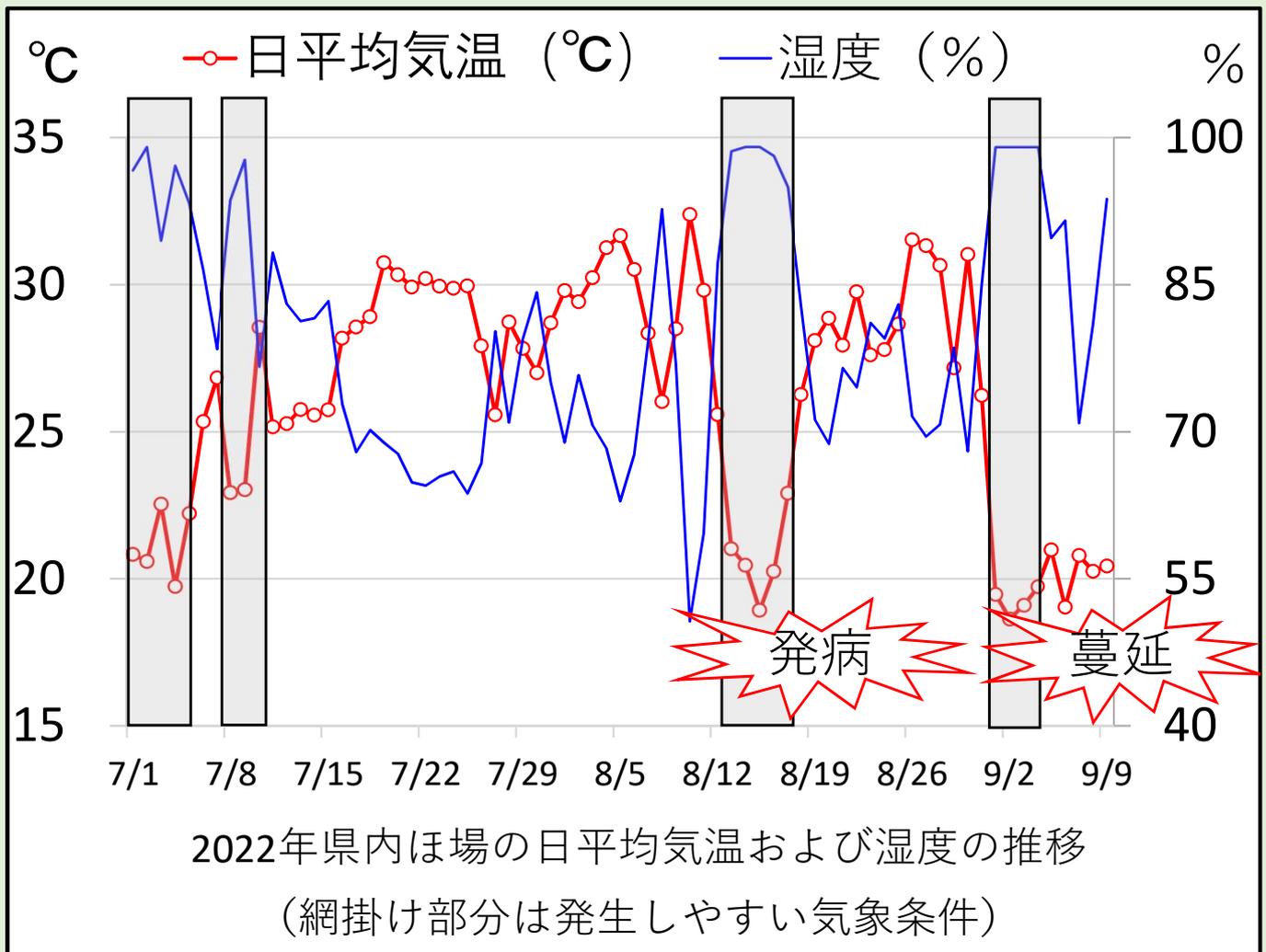
水媒伝染



3.県内の発生消長

6～9月の涼しくて雨が続く、日平均気温20℃～25℃、日平均湿度90%以上の気象条件が発病しやすい条件です。

県内では葉枚数が少ない6～7月は発病しにくく、葉枚数が15～20枚/株程度に増え、台風等の風雨が強い日が重なる8月中旬以降に発病の危険性が高まります。そして、9月上旬以降は急速に広がります。



4.防除薬剤

サトイモ疫病に登録のある農薬（2024年5月現在）

FRAC コード	商品名	使用方法	使用時期
1・M3	ベンレートT水和剤20	1分間 種芋浸漬	植付前
11	アミスター20フロアブル	散布	収穫14日前まで
21	ランマンフロアブル	散布	収穫前日まで
21・27	ダイナモ顆粒水和剤	散布	収穫21日前まで
40・M3	カンパネラ水和剤	散布	収穫7日前まで
40・M3	ベネセット水和剤	散布	収穫7日前まで
U17	ピシロックフロアブル	散布	収穫前日まで
M3	ペンコゼブ水和剤	散布	収穫7日前まで
M3	ジマンダイセン水和剤	散布	収穫7日前まで
M01	ICボルドー66D	散布	—
NC・M01	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで

5.防除体系

(1)県内の発生病をもとにした防除暦

県内の発生病と各薬剤の特性から、効果的と考えられる防除暦を作成しました。

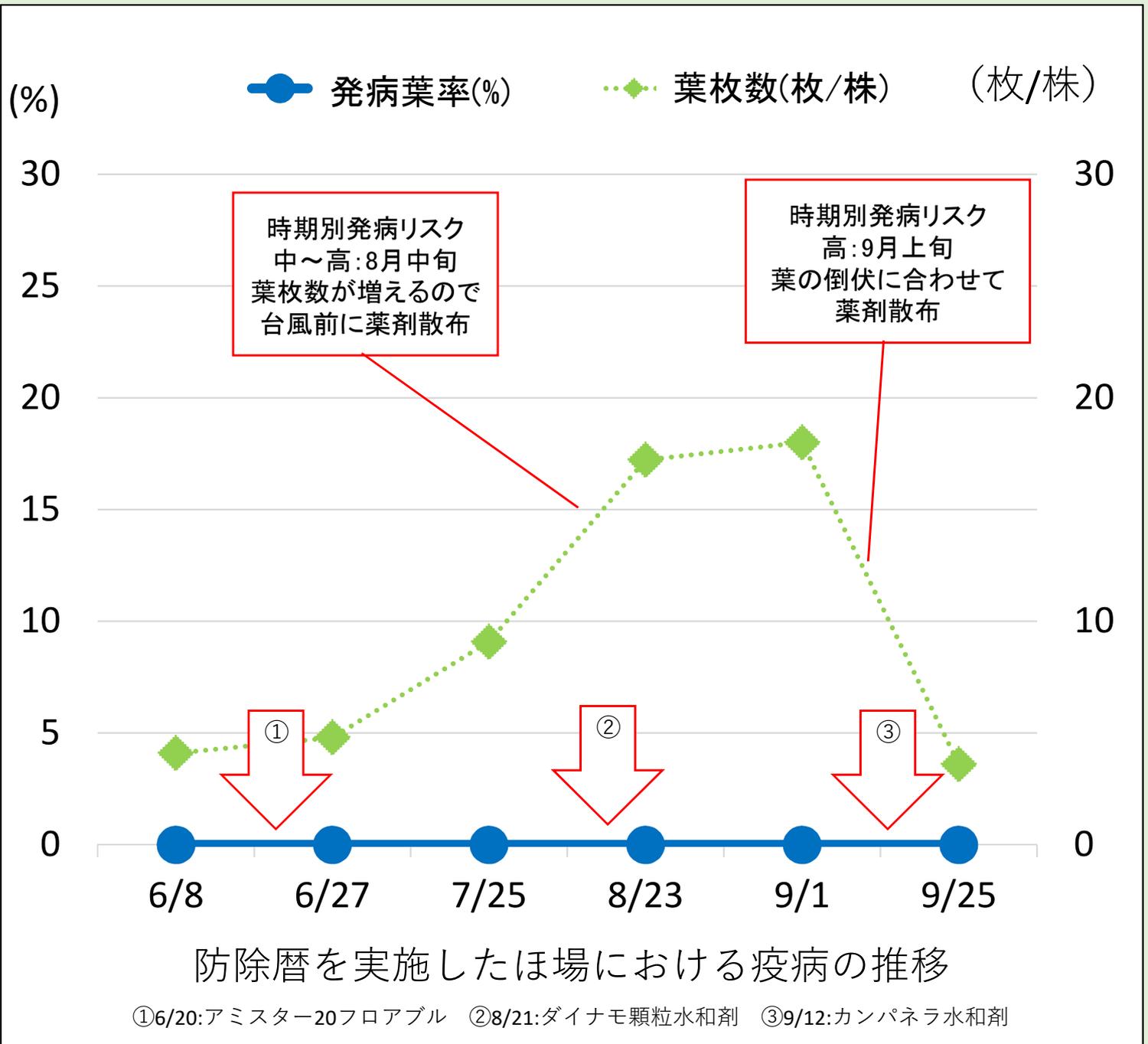
防除暦にもとづいた薬剤処理に加え、ほ場周辺の野良生え処理と適正施肥(P.8~9参照)を実施したほ場では発病を極めて軽微に抑えることに成功しています。

県内で効果的と考えられる防除暦

時期	時期別発病リスク	発病様式	防除手法
定植時	低	疫病に感染した種芋の植付け	ベンレート水和剤20 (種芋浸漬)
5月上旬~ 6月下旬	低	葉枚数が少ない内は 発病しにくい	-
7月上旬~ 7月下旬	低~中	繁茂した場合や 昨年多発した場合、 発病が始まる。	適宜カンパネラ水和剤 などを散布
8月上旬	低	晴天が続くため、発病しにくい	-
8月中旬~ 8月下旬	中~高	台風等の大雨の後に 発病が始まる	ダイナモ顆粒水和剤を 発病前~直後に散布
9月上旬	高	葉の倒伏とともに 急速に広がる	散布回数や 使用時期に注意し、 適宜農薬散布。

(2)県内での現地試験の結果

作成した防除暦をもとに県内で疫病防除試験を実施した結果、疫病の発生を抑えることに成功しました。



6. 農薬以外の防除対策

(1)種芋の水選

疫病が感染して腐敗した種芋は水に浮かびやすくなります。植付け前に水選して水に浮く芋を取り除きましょう。

また、水選で種芋についた土を落とすことで、その後に行うベンレートT水和剤20の消毒効果を高めることができます。



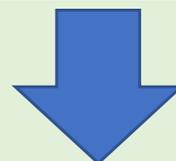
浮いた芋は腐敗している場合が多い
(写真の赤丸部分)

(2) 残渣処理

サトイモの残渣は、ほ場周辺に放置せず適切に処理しましょう。ほ場周辺の残渣から発生した野良生えがある場合、伝染源となる可能性があるためグリホサート系除草剤などで枯死させましょう。



疫病が潜んでいる可能性大



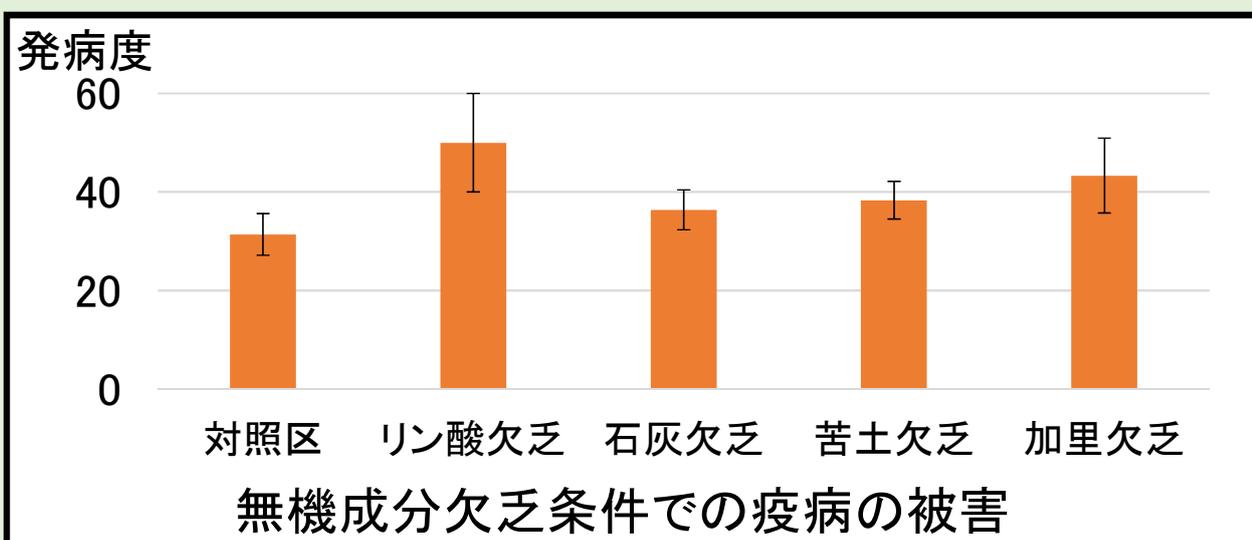
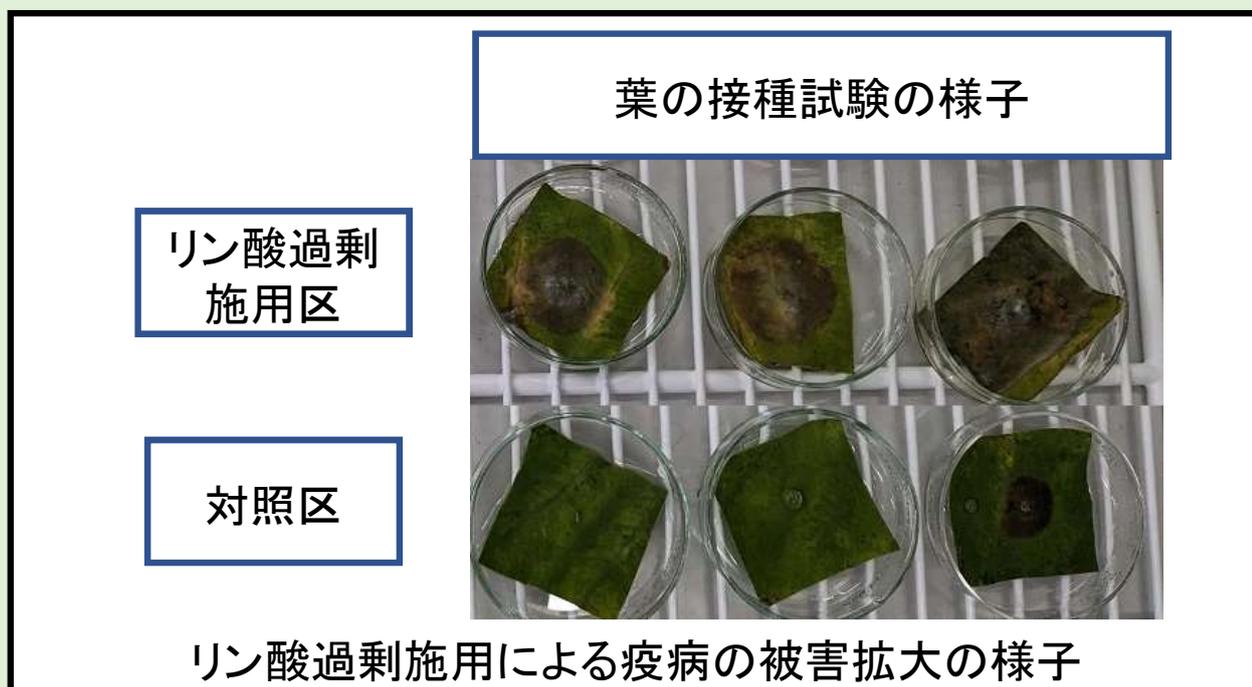
周辺ほ場への
伝染源

ほ場周辺の残渣から出芽した野良生え

(3)適正施肥

適正施肥は病害発生リスクの低減にも寄与します。リン酸などの土壌無機成分が過剰・欠乏すると疫病の被害が助長される場合があります。

土壌中の有効態リン酸が基準値(100mg/100g)を超過しているほ場では疫病の被害が大きくなる傾向がみられました。土壌診断による適正施肥を心がけましょう。



サトイモ疫病防除マニュアル

発行

埼玉県農業技術研究センター

〒360-0102

埼玉県熊谷市須賀広784

TEL: 048-536-0311(代表)

本マニュアルの無断複製・転載を禁じます。